

支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和4年3月18日

事業実施地区	長沼地区
事業名	変わりゆく長沼 在りし景色 絵はがきに記録
団体名及び 代表者名	(団体名) 長沼歴史研究会 (代表者名) (連絡先)

■事業概要（選考委員会の助言を含む）

絵はがきに書いた文面の一部より、「この絵はがきは、時の経過とともに忘れてゆく長沼の景色を記憶に留めたいと思い作成しました。絵はがきを通して、私達長沼の思いを伝える事ができましたら嬉しいです」と書き記したように、災害により失われた景色を残したい、又このはがきにメッセージをのせて長沼の様子を伝えてほしいという思いから作成した。選考委員からは、2周年のイベントで配布する事は大変良いと思うが、配布数が限られているため、配布方法につき検討するよう助言を受けた。

【事業完了日】

令和4年3月17日

【総事業費】

211,156円

【補助金額】

208,000円

※活動状況のわかる写真・成果物等を別途添付

■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

- ・イベント参加者からはとても好評を頂いた。「りんごと一緒に額に入れてはがきを贈ったらとても喜ばれた」「もったいなくて使えない、とっておく」「知り合いに分けてあげた」等嬉しい声が届いた。「ありがとう」の一言添えたメッセージが、今後も発信できる事を期待している。
- ・地域が変わる今、記憶にあるうちに記録に残せた事は良かった。
- ・飲食店などにも飾る事で、地区内外の人にもみてもらえる機会ができた事は良かった。
- ・2周年「追悼、復興、感謝の集い」の参加者は500名を上回った。その事を心配した長沼地区住民自治協議会は、歴史研究会とは別に注文をしたため、参加者全員に配布できた。

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■事業評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の内容	○			
事業の効果	○			
特記事項 (評価理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・当初守田神社の絵を県展入賞経験のある方に依頼するよう計画していたが、期間が短く期限内に完成させる事が難しいと判断したため、写真に切り替えた。 ・QRコードを作成する予定だったが、飾る場所等を考えても、必ずしも手の届く位置とは考えられず、予定はしたものの省いた。 ・額については、飾る場所を移動する案も考えたが、数を多くする事で移動せずに飾って頂ける事にした。 ・切り絵の会の協力依頼は、グループに活力を生む結果となった。 			

■今後の取組予定

- ・引き続き、記録に残す作業を続けていく。
- ・長沼の魅力を再発し、発信していきたい。



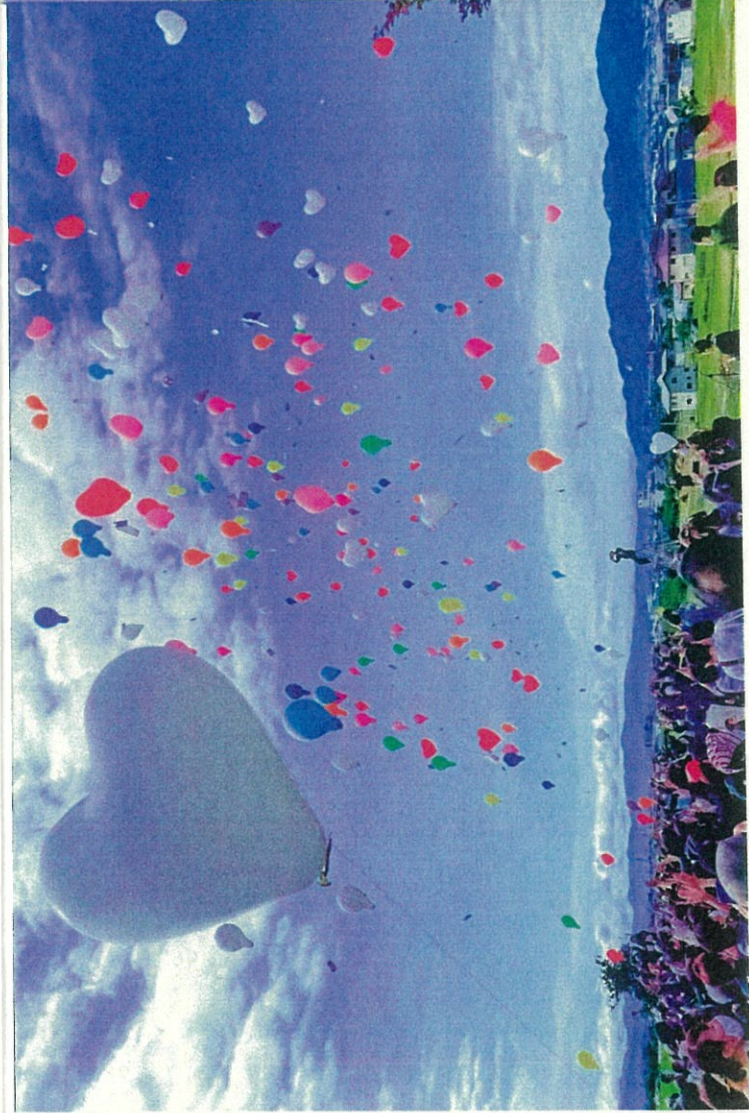
西厳寺と桜堤（大町） 長沼さりえの会・作



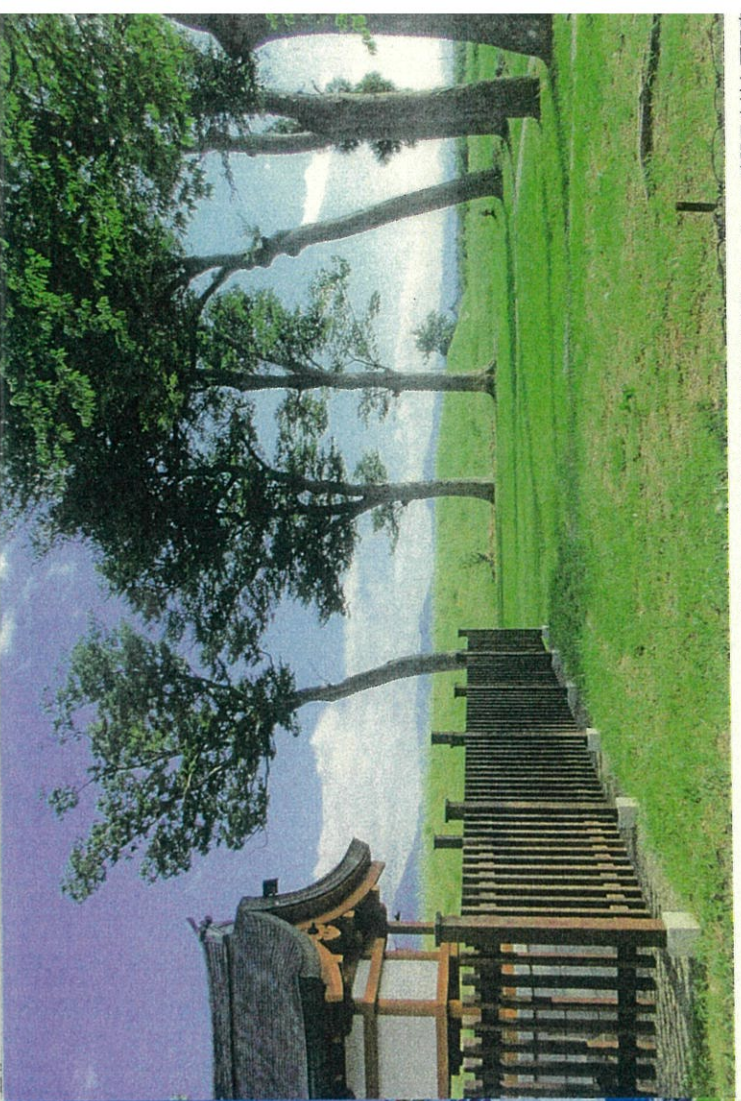
長沼城唯一の遺構「天王宮」 三代藩主佐久間勝豊が疫病退散祈願のため土塁上に建立 長沼さりえの会・作



流出した守田神社と松尾芭蕉・佐藤魚淵の句碑（徳保）



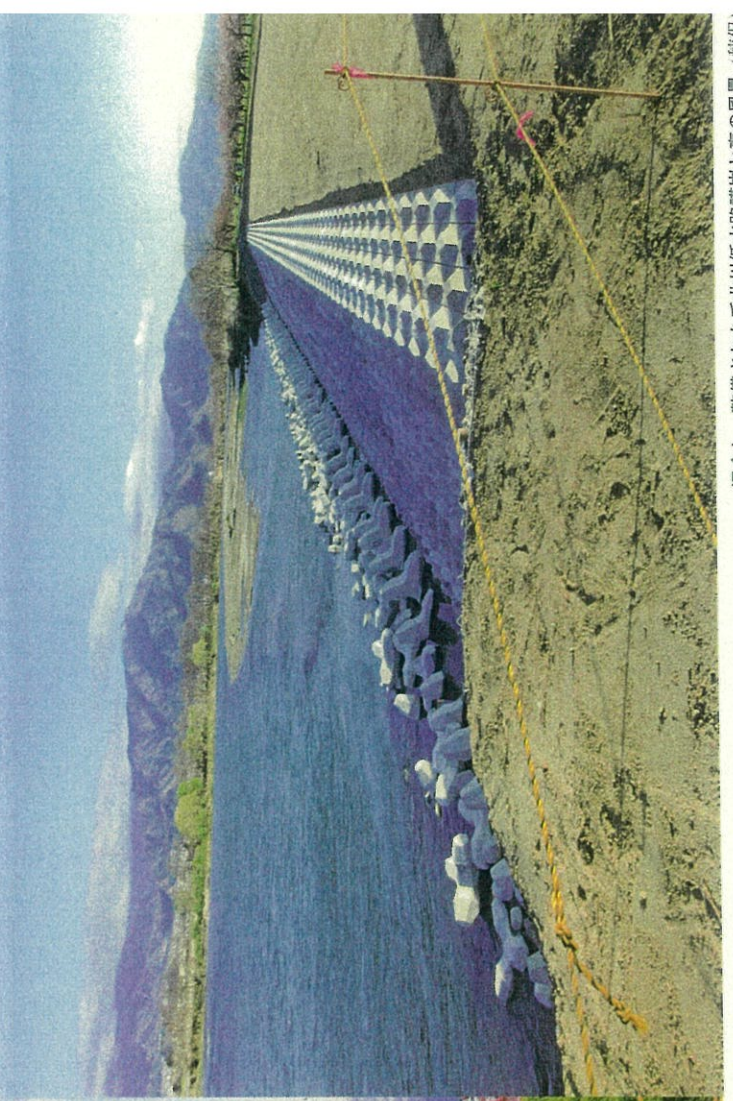
令和2年10月11日 東日本台風1周年追悼と復興のつどい 夢を託した風船飛ばし（決壊した堤防上）



再建された守田神社から望む河川防災ステーション建設予定地と天王宮



締め切り直前と総堤（決壊現場）



浸食し、整備された千曲川低水階護岸と葺の風景（穂保）



絵はがき
変わりゆく長沼
在りし日の景色



変わりゆく長沼 在りし日の景色を
絵はがきに記録

令和元年10月13日、東日本台風（19号）により千曲川の堤防が穂保で決壊したことで、地域は甚大な被害を受け多くのものを失いました。さらに今後も堤防強化や防災ステーションの建設に伴い、地域は変化していきます。この絵はがきは、時の経過とともに忘れ去られてゆく長沼・被災し大きく変わってゆく長沼の景色を記憶に留めたいと思い作成しました。絵はがきを通して、私たち長沼の思いを伝えることができましたら嬉しいのです。ご協力頂きました「長沼きりえの会」「写真提供者」の皆様には心より感謝申し上げます。

令和3年10月吉日

長沼歴史研究会

支所発地域力向上支援金 事業評価(長沼支所)

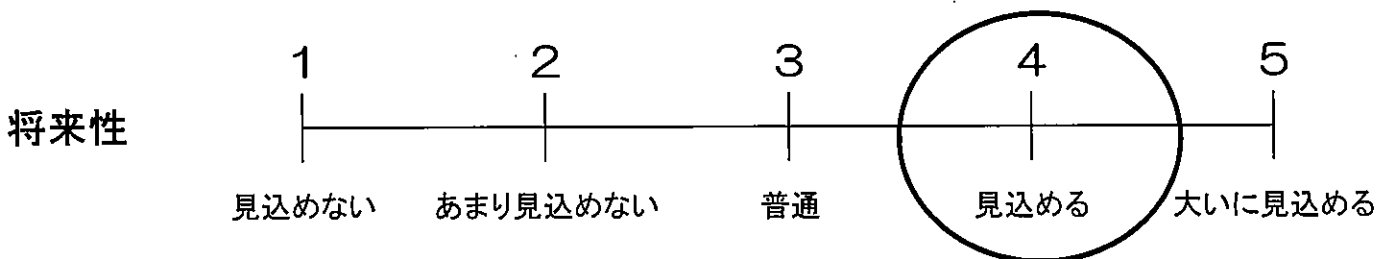
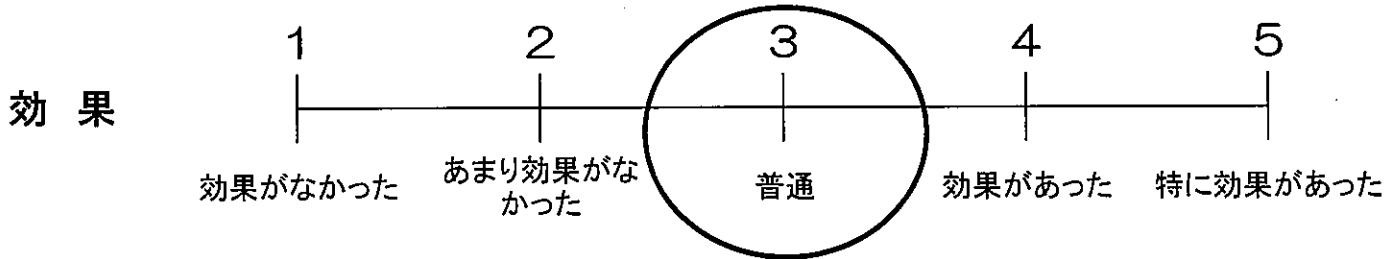
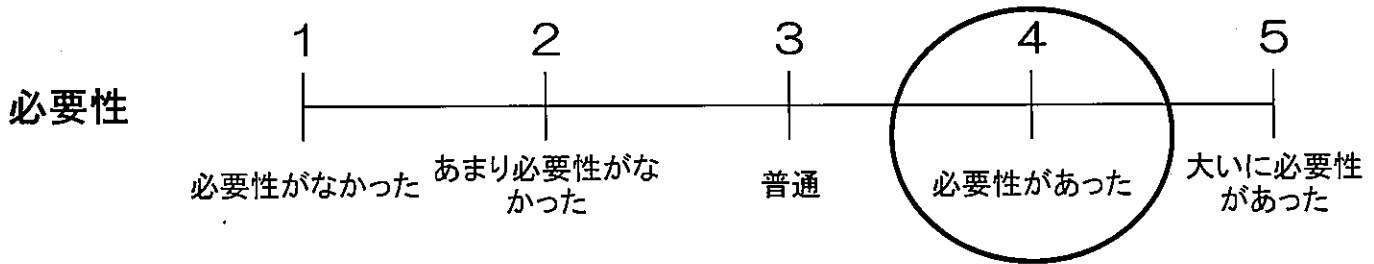
令和4年3月18日

事業名	変わりゆく長沼 在りし景色 絵はがきに記録
-----	-----------------------

団体名	長沼歴史研究会
-----	---------

評価項目 (選考基準の視点で評価)

事業区分	教育・文化活動
------	---------



支所長の総合評価 (次年度以降の活動への助言等)

令和元年東日本台風災害により、長沼地区は、堤防が決壊し、千曲川の濁流に飲み込まれるなど甚大な被害を受け、守田神社は社が流出して二度と目にすることはできなくなった。災害から2年が経過し、堤防の復旧工事が進み、防災ステーションが計画されるなど、地区の復興は進みつつあるが、その景色は従前とは違うものになろうとしている。本事業は、災害前、日常的に目にした風景や、復旧・復興の状況を絵はがきに残し、地区住民の手元におくことで、失った景色・失われようとしている景色についても、いつまでも地区住民の心の中に残るとともに、次世代に伝えていくことができ、大変有意義だと思慮する。

今回取り上げたもの以外でも、そうした景色や住民の姿など、後世に残していくものは多いと思うので、次年度以降も継続して取り組みを行うことを期待する。